

体育科教育学における基本的研究課題 —生涯スポーツ教育に関連して—

廣橋 義敬¹、金原 勇²、齊藤 富美枝³、田島 行夫¹、高山 弘⁴、島崎 旺⁴

¹千葉大学教育学部、²武蔵野体育研究所、³千葉市立末広中学校、⁴敬愛大学

The subject of basic study to the pedagogy of physical education —Relation to sports education for life —

Gikei HIROHASHI, Isamu KINPARA, Fumie SAITOH, Yukio TAJIMA
Hiroshi TAKAYAMA and Sakari SHIMAZAKI

I はじめに

今日の体育科教育は、指導内容の中核が体操、各種スポーツ、ダンスなどに限られており、しかもその指導、評価についても体操、スポーツ、ダンスなどの技能水準が対象になっている。また、学習指導は、生涯体育・生涯スポーツをめざす方向ですすめられていることからして、今日の体育科教育は実はスポーツ教育そのものになっているとみることが許されよう。

そこで、われわれは生涯スポーツ教育に関連づけた体育科教育学の基本的な研究課題は一体どのようなものになるのかを究明することにより、今後の体育科教育学研究の深化・充実に資する基礎的資料が得られるのではないかと考え本研究に取り組んだ。

その第一の理由として、体操、スポーツ、ダンス中心の指導内容になっている体育科教育学における諸研究課題は、おそらく根本的には生涯スポーツの教育的在り方と生涯スポーツ教育の在り方を確立することと、これら二つの在り方に即したスポーツの教育的体系的な確立とスポーツ教育の実

践的体系の確立という大きくこれら四つの基本的課題に総括できるのではないかと考えたからである。

第二の理由としては、わが国のみでなく国際的にみて、体育及びスポーツに関する基本的諸概念と用語に関連する諸現象間の区別、などにみられる曖昧さと混乱が放置されているという、われわれの現状認識があげられる。スポーツ現象と体育現象との区別やスポーツのとらえ方、生涯スポーツのとらえ方などを曖昧にしたままにしていて体育科教育学の研究を推進することは砂上の楼閣になりかねないように思われるからである。

II 研究法

われわれは長年にわたって、体育学及びスポーツ学の理論体系の究明を研究課題の一つにしてきた。また、人間の生活・生存に欠くことのできない役割を果たすことのできる体育及び体育的スポーツを共通理解が得られるような原点をもとにして演繹的考察、実践的研究などによって追究してきた。さらに、現代社会における体育現象及びスポー

ツ現象の多様化の在り方をも研究課題にしてきた。ここではそれらの研究結果を踏まえて、主に演繹的考察によって生涯スポーツ教育をめざす体育科教育学の基本的研究課題を究明することにした。

Ⅲ 研究結果

1. 生涯スポーツの教育的な在り方

(1) スポーツ及び生涯スポーツのとらえ方について

生涯スポーツの教育的な在り方を究明するには、

何よりもまずスポーツ及び生涯スポーツのとらえ方についての共通理解を図る必要があることからまずこの点に着目した研究結果を述べてみる。

表1は、一つには現代社会におけるスポーツ現象の多様化についての、われわれの現状把握をまとめた研究結果である。今一つには、現代社会におけるスポーツの多様化の望ましい在り方に関するわれわれの見解をも体系的に示そうと試みたものにもなっている。

表1 現代社会におけるスポーツ現象の多様化

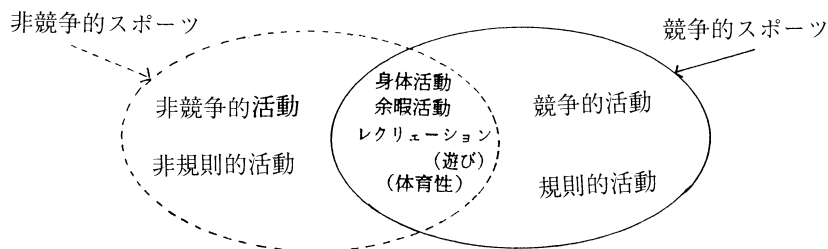
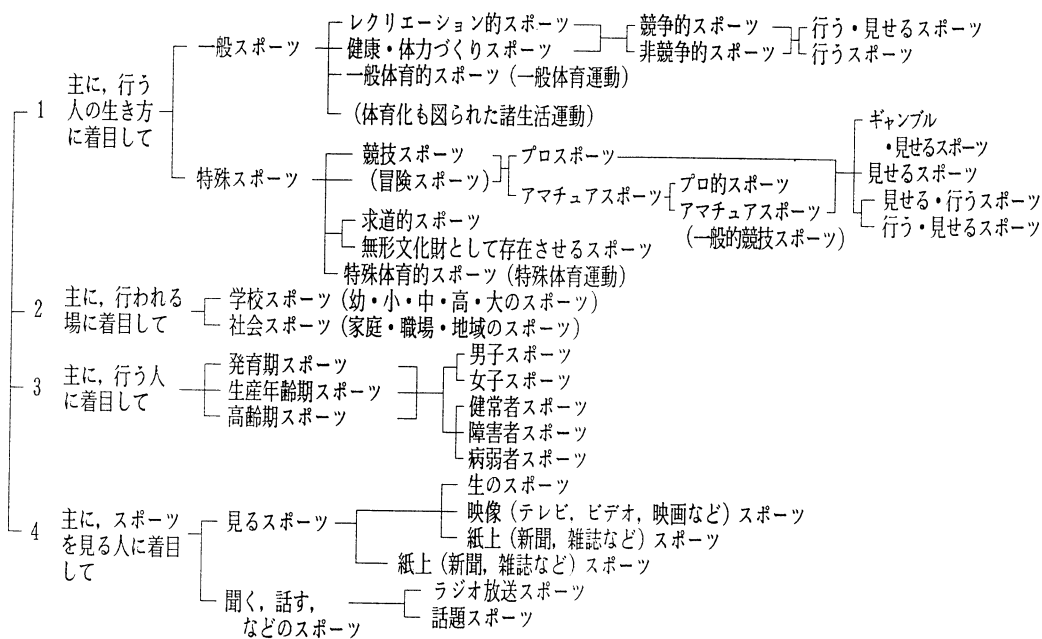


図1 一般スポーツ (Sports for All) のとらえ方

図1は、表1の中の1. 「主に行う人の要求、生き方などに着目して」における一般スポーツのとらえ方を示したものになっている。生涯スポーツにおけるスポーツは、一般に表の中の一般スポーツとしてとらえられていると考えられる。しかし、生涯のある時期に、あるいは生涯をも通して特殊スポーツをも組み込む場合には特殊スポーツをも存在させることになる。

図2は生涯スポーツの全体としてのとらえ方を構造的に示そうとして得られた研究結果である。

われわれは人間の要求と生き方、行う人の諸身体的条件などを考え、生涯段階に即して行うことの期待されるスポーツ現象の全体を生涯スポーツとしてとらえようとする立場にたっている。このような生涯スポーツは、生涯段階別の横断的な構造とそれぞれの横断的構造の生涯段階に即した望ましい変化としての縦断的構造とを伴って存在している現象としてとらえなければならないと考えている。

3 高齢期スポーツ	①健常者スポーツ ②障害者スポーツ ③病弱者スポーツ	①レクリエーション的スポーツ ②健康体力づくりスポーツ ③一般体育的スポーツ
↑	↑	↑
2 生産年齢期スポーツ	①健常者スポーツ ②障害者スポーツ ③病弱者スポーツ	①レクリエーション的スポーツ ②健康体力づくりスポーツ ③一般体育的スポーツ (④特殊スポーツ)
↑	↑	↑
1 発育期スポーツ	①健常者スポーツ ②障害者スポーツ ③病弱者スポーツ	①レクリエーション的スポーツ ②健康体力づくりスポーツ ③一般体育的スポーツ (④特殊スポーツ)

図2 生涯スポーツのとらえ方(その1)

表2 わが国にみられる諸体育観

体育観		主な特徴
1 スポーツ型体育観	(1) レジャースポーツ(レクリエーションスポーツ)型体育観 (2) 競技スポーツ型体育観 (3) 求道スポーツ型体育観 (4) 健康・体力づくりスポーツ型体育観	①スポーツ(体育運動)実践の重視 ②生活の一部になる現象
2 健康・体力の維持・増進型体育観	(1) 健康型体育観 (2) 健康・体力型体育観	①運動・栄養・休養の三本柱 ②健康の維持・増進の重視 ③生活の重要な部分にかかわる現象
3 生活(設計・統御)型体育観 〔根源的・日常的ライフスタイル型体育観〕 〔人間形成型体育観〕		①活動・栄養・休養の三本柱 ②個人的社会的にみて望ましい生き方のできる能力・態度育成の重視 ③生活全体にわたる一面性になる現象

∴体育(心育)は主に全ての身体的なこと(精神的なこと)を通して、個人的・社会的にみて望ましい生き方のできる人間の身体的精神的育成(精神的身体的育成)を意図的に図る、生活全体を一面的に設計・統御する現象である。

表2は、今日わが国に実践的に存在しているとみられる諸体育観を類型化して示そうとして得られた研究結果である。その一つの類型は、スポーツ型体育観で主な特徴に着目すると、さらに4種類に分けることができると考えられる。この体育観は、スポーツ指導者と体育指導者とを同一視している文部省型体育観とも呼ぶことが許されると考えられる。この体育観の最大の問題点としては、スポーツだけでは体育のめざす身体的精神的人間形成はできないということがあげられる。

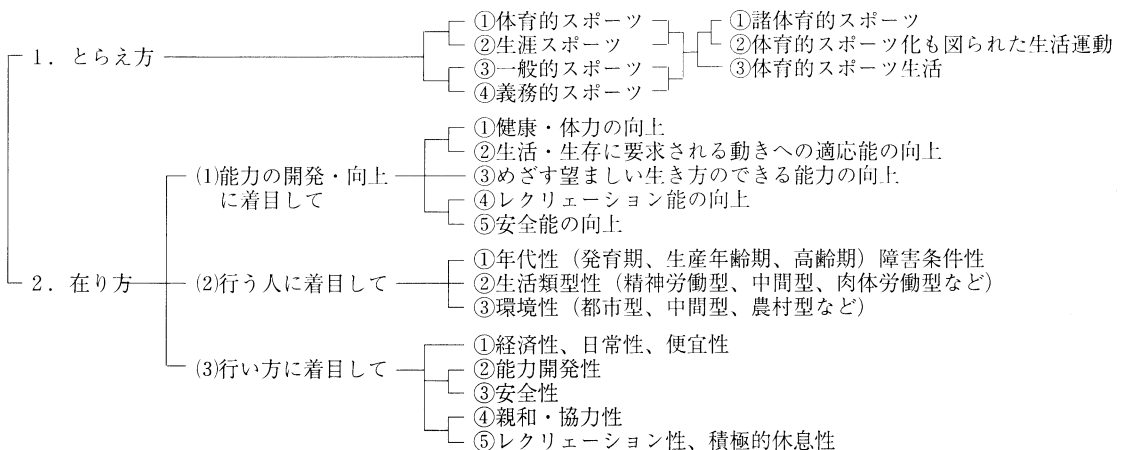
その一つの類型は、健康・体力の維持増進型体育観であって運動、栄養、休養の三本柱による厚生省型体育観あるいは医学的体育観と呼ぶことも許されると考えられる体育観である。この体育観の最大の問題点としては、精神的人間形成にかかわりのないとらえ方になっている点があげられる。

その一つの類型には、活動、栄養、休養の三本柱による生活全体にわたる一面性になる現象としてとらえているわれわれの提唱する生活設計・統御型体育観である。この体育観は、スポーツ型体育観及び健康・体力型体育観とは対立しない、両者をも内在させたより広い視点にたったとらえ方

になっている。この体育観の特徴は、体育実践が各人の生き方に即したライフスタイルの形成に積極的に寄与していくこと、換言すると望ましい方向での人間形成に確実に寄与していくことにある。したがって、この体育観は表2の中に示すように、根源的・日常的ライフスタイル型体育観あるいは人間成型体育観と呼ぶと、一段とその特徴が明確になるように考えられる体育観である。われわれは生涯スポーツをこのような生涯段階に即した生活設計・統御型体育観に組み込んでいる、組み込まれていることの望まれるスポーツ現象の全体としてとらえようとする立場にたっている。

一方、生涯スポーツは、社会教育的には一般に全体として表3に示すような行う国民スポーツ(sports for all)としてもとらえられるとすることには異論の余地はないと考えられる。ここでの国民スポーツとは、広く国民が生涯にわたって義務として行うことが期待されるような一般的体育的スポーツを言う。このことは、国民スポーツは、国民が義務としてスポーツ環境を整えることの期待されていることを意味するものである。

表3 行う国民スポーツのとらえ方・在り方



※1 国民に生涯にわたって、広く義務として行うことが期待される、個人的・社会的にみて望ましい平和な生きがいがある生き方に役立つスポーツ

※2 現代社会における「見る国民スポーツ」の役割・重要性

表4 生涯スポーツのとらえ方

- ① 一般スポーツ及び特殊スポーツをも組み込んだ一般的スポーツ
- ② 生活設計・統御型体育に内在させるスポーツ
- ③ 生涯段階に即して構築されたスポーツ
- ④ 行う国民スポーツ

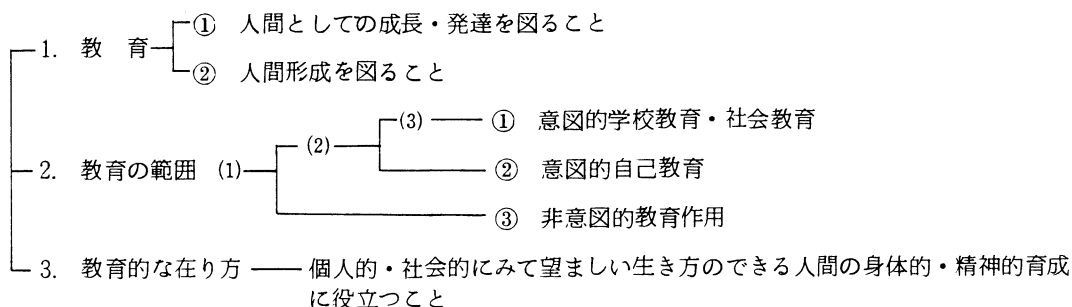
表1、表2、表3、図1、図2をもとにすると、生涯スポーツのとらえ方は表4に示すように①一般スポーツ及び特殊スポーツをも組み込んだ一般的スポーツ、②生活設計・統御型体育に内在させるスポーツ、③生涯段階に即して構築されたスポーツ、④行う国民スポーツ、などとして総括することができると考えられる。

(2) 生涯スポーツの教育的な在り方について

表5は生涯スポーツの教育的な在り方における

教育のとらえ方、教育的な在り方のとらえ方を示そうとして得られた研究結果である。ここでは、教育を人間形成を図ることという極めて広いとらえ方をしてある。その理由は、生涯スポーツの実践現象は一般に広く日常生活現象として存在しており、それらの実践現象が効果的になるようにすることのすべての教育としてとらえておくことが必要だからである。

表5 教育、教育的な在り方などのとらえ方



このような広いとらえ方をすると、教育とは表の中の2の①、②、③の三つの場合を含む(1)のとらえ方をすることが望ましいことになる。われわれは教育的な在り方を、特に体育及び体育的スポーツとの関連づけを考えて「個人的・社会的にみて望ましい生き方のできる人間の身体的精神的育成に役立つこと」としてとらえている。

図6は、人間形成を可能にする体育・体育的スポーツの実践的・基本的構築ルートを示そうと試みたものになっている。この図の中の3種のとらえ方による目標は、人間形成の3つの視点から目的的にとらえたものになっている。したがって、

いずれの視点からの目的にも即するようにしていくことが、真の人間形成になっていくことになる。

このようにみえてくると生涯スポーツの教育的な在り方は、これらの3種類の諸基本的目的のいずれの達成にも役立つこととしてとらえられることになると考えられる。なお、表8に示す「究極的応用的階層に示したことに役立つこと」も生涯スポーツの教育的な基本的な在り方を示したものになっている。

表6は、生涯スポーツを生涯段階を考えて大きく発育期スポーツ、生産年齢期スポーツ、高齢期スポーツに分け、それぞれの在り方の基本的特徴

を示そうと試みた結果得られた研究結果である。

表6 生涯スポーツの生涯段階に即した在り方

発育期スポーツ	生産年齢期スポーツ	高齢期スポーツ
① 学習生活を全体として効果的にするのに役立つこと	① 生産生活を全体として効果的にするのに役立つこと	① 生産的なことにも寄与し、自立的に生活するのに役立つこと
② 心身にわたる全面的発育・発達に役立つこと	② 健康・活動力の向上・維持に役立つこと	② 心身にわたる老化防止に役立つこと
③ 安全な生きがいのある生活をするのに役立つこと	③ 安全な生きがいのある生活をするのに役立つこと	③ 安全な生きがいのある生活をするのに役立つこと

われわれは、発育期スポーツでは効果的な学習生活の充実と心身にわたる全面的発育・発達に役立つことを、生産年齢期スポーツでは生産性の高い生活と生産の基礎になる健康・諸活動の向上・維持に役立つことを、高齢期スポーツでは生産的なことにも寄与でき老化防止に役立つことを、それぞれの段階における最も重要な基本的課題にすべきであると考えている。したがって、この表は生涯スポーツの教育的な在り方を縦断構造的に示

そうとしたものにもなっていることになる。

(3) 生涯スポーツの教育的な在り方に関する基本的諸研究課題について

表7は、生涯スポーツの教育的な在り方を全体的構造的に明らかにするには、何よりその基本的研究課題として生涯スポーツのどんなことについての教育的な在り方を取り上げるとよいかを示そうとして得られた研究結果である。

表7 生涯スポーツの教育的な在り方に関する基本的諸研究課題

- ① 体育及び生涯体育におけるスポーツ及び生涯スポーツの位置づけ方
- ② スポーツ及び生涯スポーツの教育的・体系的なとらえ方・在り方
- ③ 生涯スポーツに組織的に内在させる基礎・基本的なことの教育的・体系的なとらえ方・在り方
- ④ 教育的なとらえ方・在り方に即した生涯スポーツの体系的確立のための研究の在り方
- ⑤ 現行諸スポーツの体育及び生涯体育的視点からの評価の在り方、など

基本的な研究課題には、①体育及び生涯体育におけるスポーツ及び生涯スポーツの位置づけ方、②スポーツ及び生涯スポーツの教育的・体系的なとらえ方・在り方、③生涯スポーツに組織的に内在させる基礎・基本的なことの教育的なとらえ方・

在り方、④教育的なとらえ方・在り方に即した生涯スポーツの体系的な確立のための研究の在り方、⑤現行諸スポーツの体育及び生涯体育的視点からの評価の在り方、などがあげられる。

表8 生涯スポーツに内在させる基礎・基本的なことのとらえ方・在り方

階層段階	階層段階に即した基本的柱
究極的実践的階層	<ul style="list-style-type: none"> ① 諸基本的価値の追求・実現がスポーツによっても図られている生活 ② 諸基本的価値の追求・実現能力のスポーツによる開発
直接的実践的階層	<ul style="list-style-type: none"> ① 一般スポーツ ② 障害者スポーツ ③ 共通スポーツ
基礎的階層	<ul style="list-style-type: none"> ① 発育期基礎・基本的なこと ② 生産年齢期基礎・基本的なこと ③ 高齢期基礎・基本的なこと ④ 障害者基礎・基本的なこと

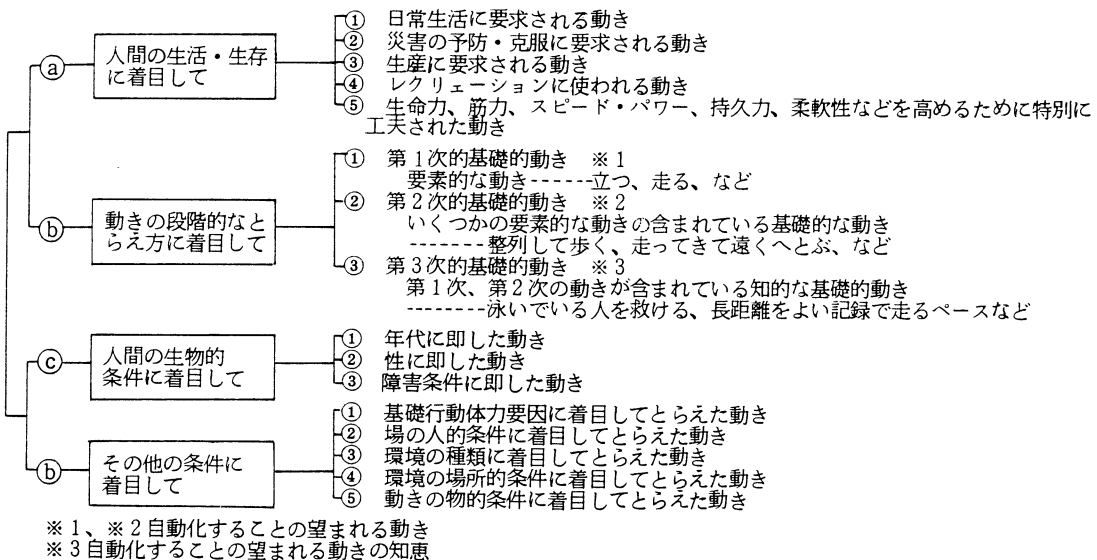
階層段階	階層段階に即した基本的柱
究極的実践的階層	<ul style="list-style-type: none"> ① 平和な生きがいのある生き方がスポーツによっても図られている生活 ② 平和な生きがいのある生き方のできる能力のスポーツによる開発
直接的実践的階層	<ul style="list-style-type: none"> ① 発育期スポーツ ② 生産年齢期スポーツ ③ 高齢期スポーツ
基礎的階層	<ul style="list-style-type: none"> ① 諸体育的スポーツの行い方、それぞれの生活への取り入れ方(各種スポーツ) ② 諸体育的スポーツの全体としての生活への取り入れ方(スポーツ生活)

基礎的階層	基礎的階層に即した基本的柱
① 発育期基礎・基本的なこと	① 基礎・基本的な動き、動きづくりの行い方などに関する事
② 生産年齢期基礎・基本的なこと	② 体力の向上に役立つ運動負荷、体力づくりのすすめ方などに関する事
③ 高齢期基礎・基本的なこと	③ スポーツによるレクリエーション及び積極的休息に関する事
④ 障害者基礎・基本的なこと	④ スポーツによる精神的人間の育成(精神的能力、態度の育成)に関する事
	⑤ 災害の予防・克服能力のスポーツ的方法による開発に関する事

表8は、表7の③に示した体育的スポーツに内在させる基礎・基本的なことのとらえ方・在り方を示したものになっている。生涯スポーツの体系

的創造にはこの表の中の基礎的階層に示した基礎・基本的なことの究明が、生涯スポーツの組織的確立に最も重要なことになる。なかでも基礎・基本

表9 人間の生活・生存に要求される基礎・基本的動きのとらえ方



的動きが最も重要である。表9は、われわれの生活設計・統御型体育観をもとにするとき、どんな

ことが基礎・基本的動きとしてとらえられるかを示そうとして得られた研究結果である。図3は、

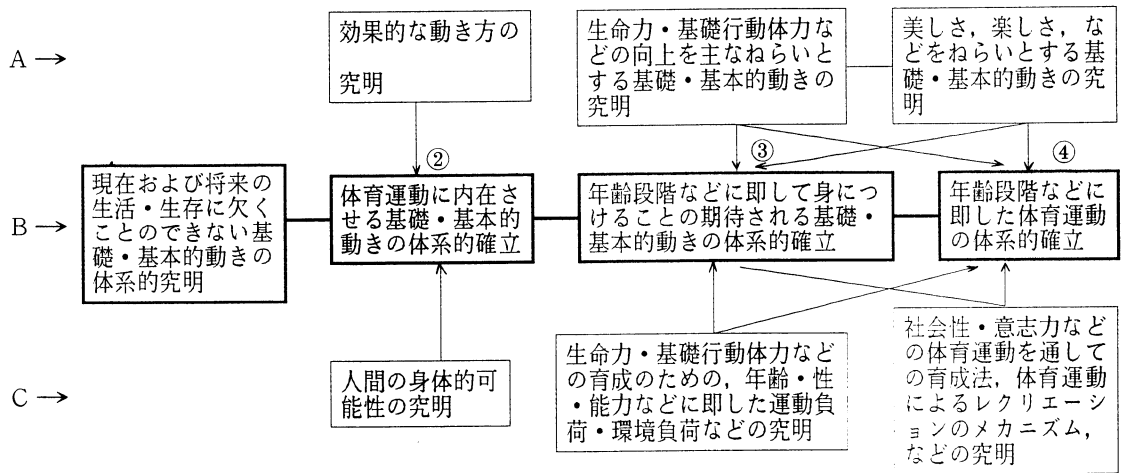


図3 体育運動（生涯スポーツ）の体系的確立のための研究チャート

表7の④の「生涯スポーツの体系的な確立のための研究の在り方」に対応するわれわれの知見を示したものになっている。表7、表8、表9、図3は、われわれのグループでの生活設計・統御型体

育観による体育運動、換言すると生涯スポーツの体系的創造に関する研究課題のとらえ方、研究のすすめ方に関する基本的なことを示すものになっている。

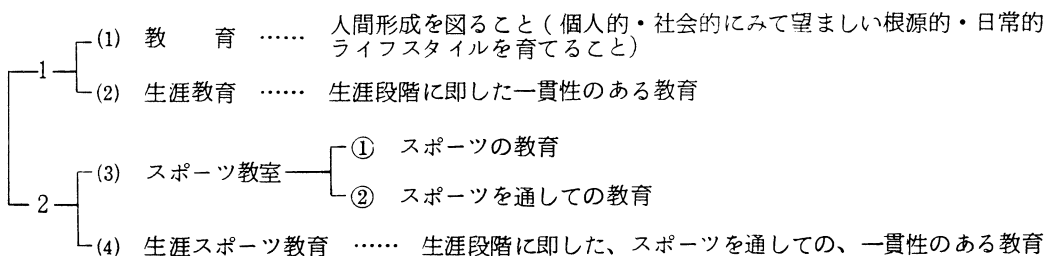
2. 生涯スポーツ教育の在り方

(1) 生涯スポーツ教育のとらえ方について

表10は、生涯スポーツ教育のとらえ方に関する

われわれの見解を教育及び生涯教育のとらえ方とスポーツ教育及び生涯スポーツ教育のとらえ方との二つに分けて示したものになっている。

表10 生涯スポーツ教育のとらえ方



教育のとらえ方についてはすでに表5でも示してきたが、ここでは生涯教育を生涯にわたる計画性、一貫性のある教育としてとらえることにした。

特に、一貫性は教育目標、教育方法にわたって考えなければならない性質のものである。

スポーツ教育をスポーツの教育、換言すると主

にスポーツ能力の開発・向上を図ることを含む
 スポーツを通しての教育、さらに換言すると、ス

ポーツを通しての身体的・精神的育成を図ること
 としてとらえている。

表11 生涯スポーツ教育の在り方

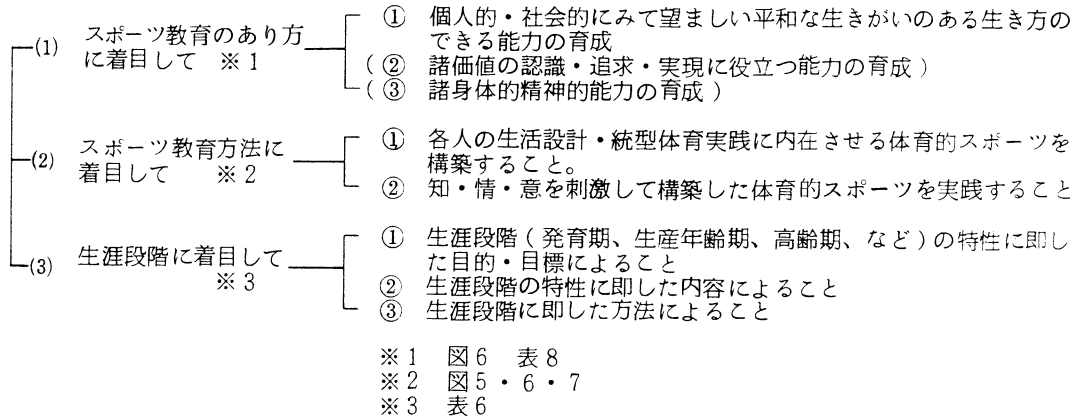
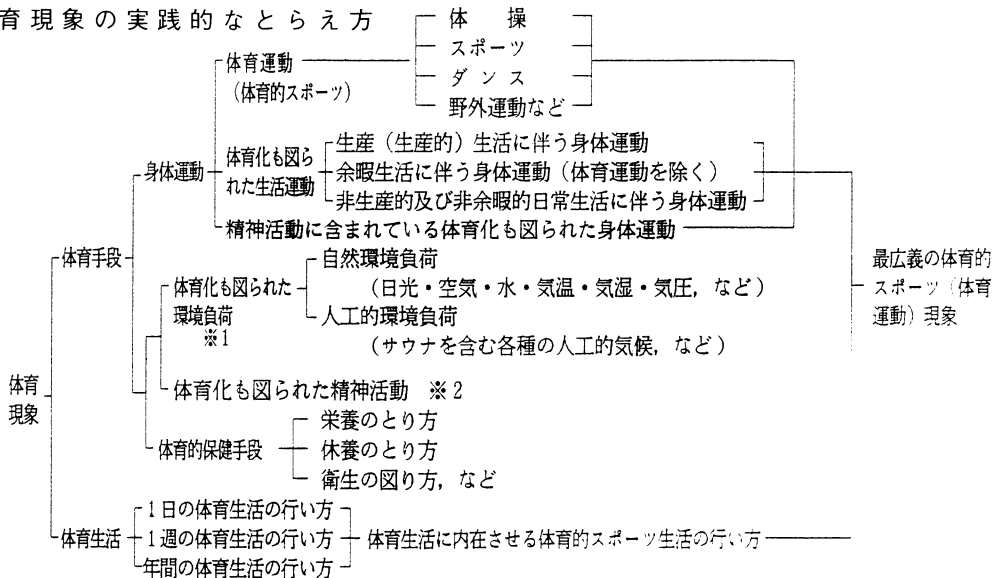


表11は、われわれの生活設計・統御型体育観をもとにした生涯スポーツ教育の在り方を示したのになっている。ここに示されている(1)のスポーツ教育の在り方に着目したとらえ方、(2)のスポーツ教育方法に着目したとらえ方は、いずれも人間の生涯の総ての段階に必要なとらえ方になっている。教育目的に着目したスポーツ教育の在り方には、生涯スポーツの教育的な在り方の中で示してきた図6のBブロックで示したことがそのままあては

まる。また、(3)の生涯段階に即したスポーツ教育の在り方には、すでに表6の生涯スポーツの生涯段階に即した在り方の中で示したことがそのままあてはまる。したがって、ここでは(2)のスポーツ教育方法の在り方に関して、表12、図4、図5、図6、図7をもとにして、生活設計・統御型体育におけるスポーツ教育方法の基本的な在り方に関するわれわれの見解として①、②を示しておくことにした。

表12 体育現象の実践的なとらえ方



※1 環境負荷は体育的保健手段としてもとらえられる。
 ※2 精神活動は、身体への影響に着目するとして体育手段としても位置づけられる。

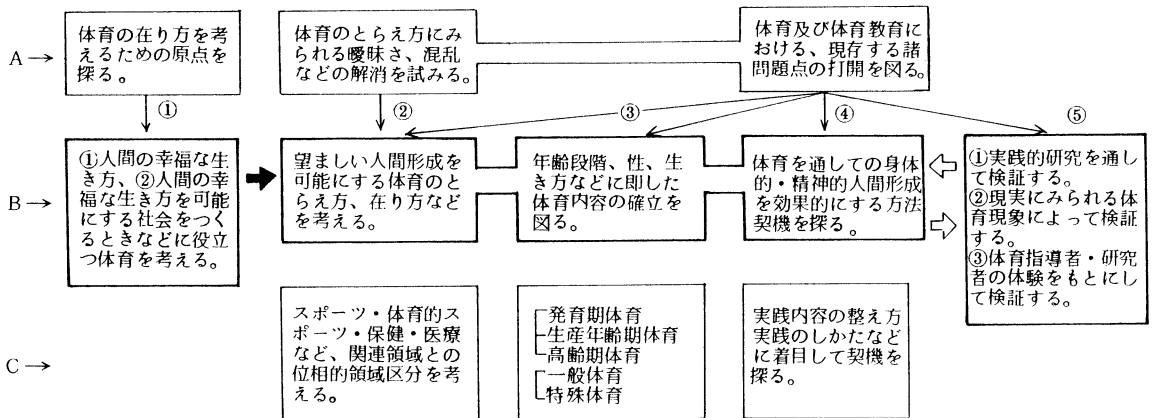


図5 生活設計・統御型体育の演繹・帰納法的研究チャート

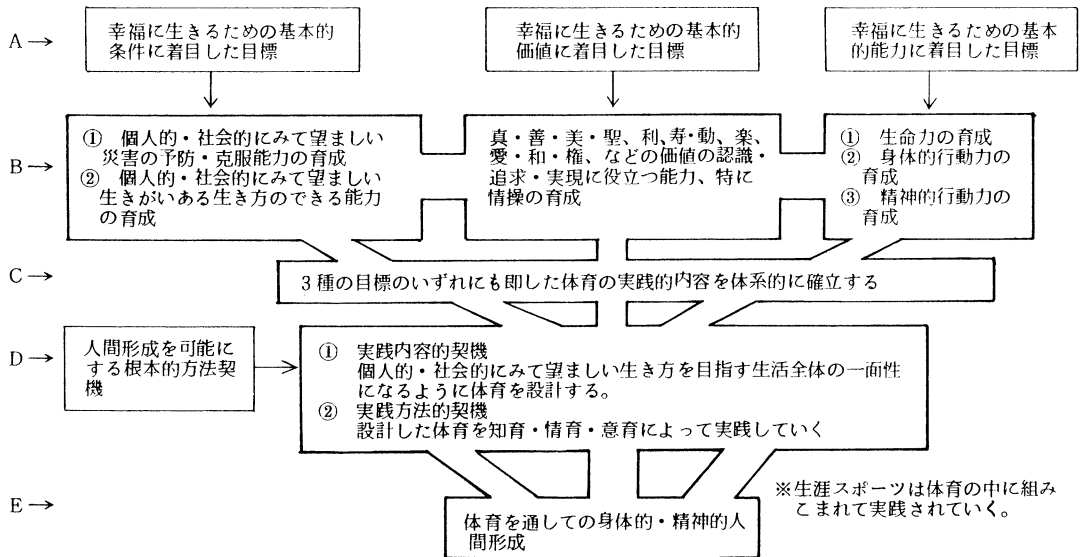


図6 人間形成を可能にする体育の実践的・基本的構築ルート
——特に基本的契機となることに着目して——

表12に実践内容として示した生活設計・統御型体育では、何よりも図5のBブロック④に示す「体育を通しての身体的精神的人間形成を効果的にする根本的方法契機を実践内容の整え方、実践のすすめ方、などに着目して探る」必要がある。この方法契機が明確になれば体育を通してのめざす方向での人間形成が意図的に確立できることになる。

図6のDブロックに示す「人間形成を可能にする根本的方法契機」は、われわれのこれまでの研究をもとにして得られた成果を仮説的に示したものになっている。われわれは生活設計・統御型体育が広く受け入れられ、この仮説が体育方法、体育教育方法、スポーツ教育方法の基本的在り方を示す実践的基本原理として広く認められることを強く願っている。

ここに示してある根本的方法契機は、生涯スポーツと関連づけると①生涯にわたって個人的・社会的にみて望ましい生き方に即した生活の一面性になるような体育に位置づけてスポーツ実践をできるだけ自主的にさせるように、あるいはするようにしていくこと。②各人にとって望ましいスポーツ生活の設計・統御能力を知育・情育・意育などを通して、できるだけ自主的に高めさせられるように、あるいは高めるようにしていくこととして示されると考えられる。

図7は、生涯スポーツ教育の教育方法に着目した根本的な在り方を人間に認識、追求、実現が期待される価値と関連づけて示したものである。生涯スポーツ教育は、この図の中の体育に関する教育に組み込まれて行われていくことになる。

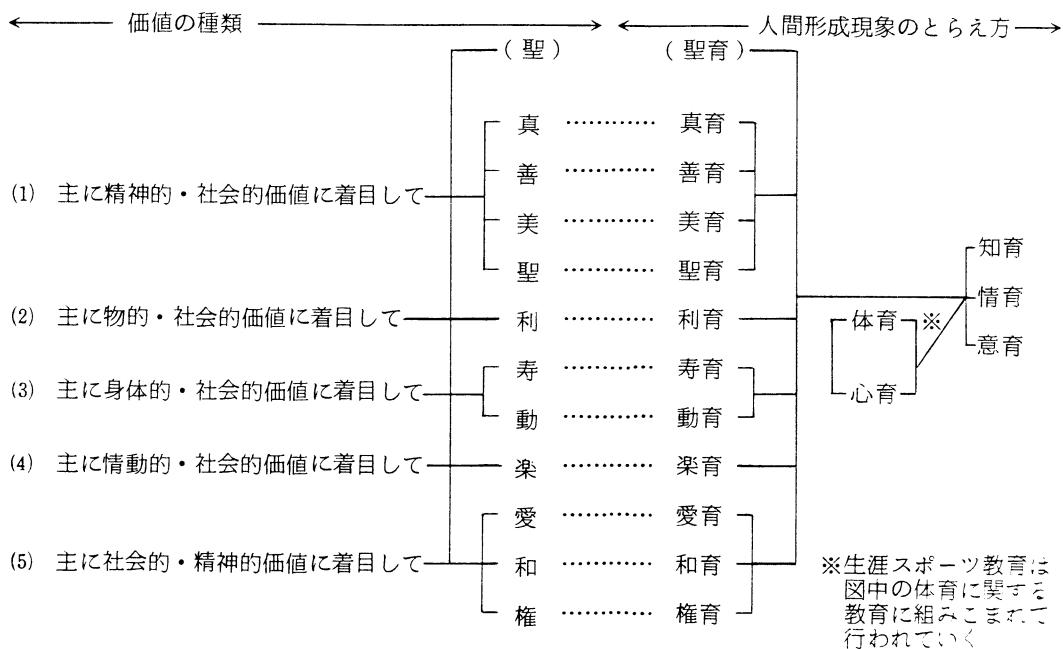


図7 人間形成現象における体育の位置づけ
—— 基本的価値に着目した基本的方法と関連づけて ——

表13は、生涯スポーツ教育の在り方に関する基本的研究課題になると考えられることをまとめたものになっている。

表13 生涯スポーツ教育の在り方に関する基本的研究課題

- ① 体育教育及び生涯体育教育におけるスポーツ教育及び生涯スポーツ教育の位置づけ方
- ② スポーツ教育における目的・目標の基本的・体系的なとらえ方・在り方
- ③ 生涯段階に即したスポーツ教育目標のとらえ方・在り方
- ④ スポーツ教育方法の基本的なとらえ方・在り方
- ⑤ 生涯段階に即したスポーツ教育方法の基本的なとらえ方・在り方

生涯スポーツ教育が望ましい方向で実践に役立つように体系的に確立されていくためには、①体育教育及び生涯体育教育における生涯スポーツ教育の位置づけ方、②スポーツ教育及び生涯段階に即したスポーツ教育の目的・目標のとらえ方・在り方、③スポーツ教育方法及び生涯段階に即した教育方法の基本的なとらえ方・在り方、などについての共通理解が必要であると考えられる。

Ⅲ ま と め

以上の研究結果からスポーツ教育には、すべての人を対象にして生涯にわたって行われていくことの期待される生涯教育、生涯学習の一環として欠くことのできない役割を果たすことが期待されているとすることに異論はないとする結論的示唆を引き出すことが許されることが考えられる。また、このような期待に応えられるような生涯スポーツ教育をめざす体育科教育を推進させるためには、①生涯スポーツの教育的な在り方及び生涯スポーツ教育の在り方の追求、②これらの在り方に即して生涯スポーツの全体にわたる体系的追求及び生涯スポーツ教育の全体にわたる実践的体系的な追求が基本的研究課題になるとする示唆を引き出すことも許されることが考えられる。

最後に多くの先生方からの御批判、御指導を切望する。

参 考 文 献

- 1) 金原 勇、広橋 義敬；生活・生存のための体育の基本原則 体育原理研究 1984年
- 2) 広橋 義敬、金原 勇；現代社会に果たし得る体育とスポーツの役割 体育原理研究 1985年
- 3) 広橋 義敬；身体的・精神的人間形成に関する研究 教育相談センター年報第4号 千葉大学教育学部 1988年
- 4) 金原 勇、広橋 義敬；体育に内在させる基礎・基本的なことの在り方 体育原理研究 1989年
- 5) 田島 行夫、広橋 義敬；剣道指導と人間形成Ⅱ 武道学研究第22巻第2号 日本武道学会 1989年
- 6) 広橋 義敬他；人間の生活・生存に要求される基礎的動きの研究 千葉体育学研究 千葉県体育学会 1990年
- 7) 広橋 義敬他；学校体育指導に関する基礎的研究 学校体育の研究法 千葉大学教育学部研究紀要第38巻第2部 1990年
- 8) 広橋 義敬他；体育科教育学に関する基礎的研究Ⅰ 体育科教育学の確立 千葉大学教育学部研究紀要第39巻第2部 1991年
- 9) 金原 勇、広橋 義敬；学校体育論 原理編 建帛社 1991年

(1991年12月15日受付)